

# 岡山 表町商店街における歩行者・自転車共存社会実験の取り組みについて

国土交通省中国地方整備局岡山国道事務所計画課

## 1. はじめに

岡山県岡山市は、人口約70万人。瀬戸内海特有の温暖な気候と水や緑に恵まれ、マスカットやピオーネなどの果物の栽培が盛んである。岡山市は、本年4月より政令指令都市へ移行し、中四国のクロスポイントとしての役割の充実をすすめている。

また、岡山県は、『晴れの国』と言われるほど

降水量が少なく、平坦な地形であるため、自転車の利用が大変さかんな都市である。このような自転車利用が盛んな土地柄もあり、商店街の中での自転車のあり方が問題となっていた。今回は、平成20年度の国土交通省社会実験に採択され取り組んだ、自転車・歩行者共存の社会実験事例を紹介する。

## 2. 社会実験の取組み

### (1) 社会実験の背景

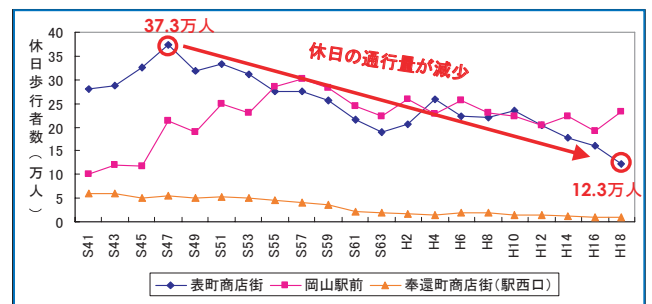
今回の社会実験は、JR岡山駅から東へ約1kmの場所に位置する表町商店街において、社会実験を実施した。本商店街は、自転車進入禁止（9時～21時）の規制があるにもかかわらず、自転車の乗り入れが多い状況にあった。商店街の中に設置された

意見箱においても、約8割が自転車の乗り入れに対する苦情であり、大半を占めていた。

また、商店街の通行量が年々減少しており、休日の通行量では、ピーク（昭和47年）の37.3万人から、平成18年には12.3万人まで減少し、中心市街地の活性化のためにも、商店街を安全・安心に通行できる環境が望まれていた。



図-1 位置図



出典:「岡山市商店街通行量調査」(岡山市経済局経済企画総務課)により作成

図-2 商店街の歩行者数

### (2) 社会実験の内容

自転車進入禁止にもかかわらず、自転車の乗り入れが多い表町商店街において、『①自転車は岡

山の大切な交通手段！！自転車も大切なお客様』、『②規制の徹底という関係から、皆でマナーを守りあえる関係へ』、『③マナーを守るだけでなく、おもてなしのある空間づくり』と言う3つの基本方針の中、主に以下の2つの対策を実施した。

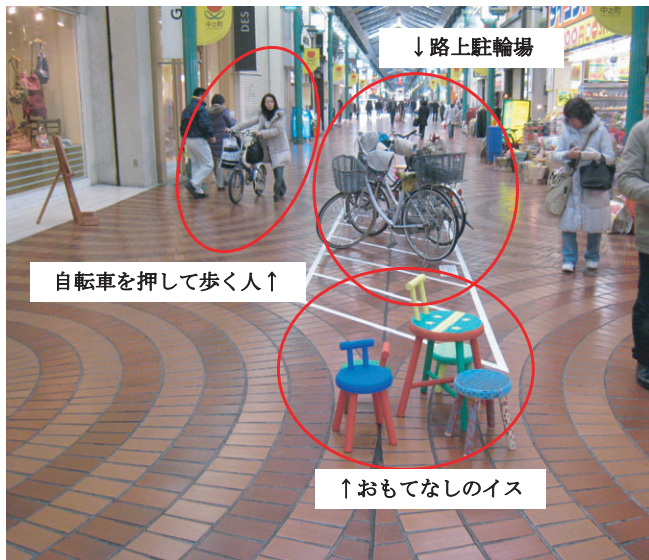
○ 道路上への障害物設置による「自転車通行の抑制」

幅員約8mと広い道路であるため、自転車の通行がしやすく、乗車したまま通行していく自転車が多かった。そこで、10時～19時の間、道路中央部におもてなしのためのイスと白線による路上駐輪場を設置し、乗車したままの通行がしにくい空間づくりをすすめた。

○ 駐輪場設置による「不法駐輪の解消」と「商店街の活性化」

これまで、各商店の前に粗雑に駐輪されていた自転車を、道路中央部に路上駐輪場を設置することで、整然と整列した駐輪を可能とした。

また、これらの対策を実施する際には、自転車を開け出すのではなく、自転車も大切なお客様であり、歩行者と自転車が共存していける商店街を目指し看板等の対策をすすめた。



写真－1 社会実験中の写真

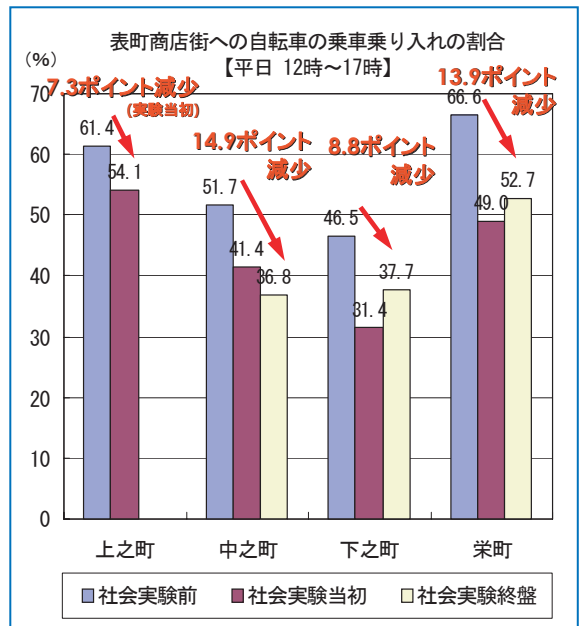
(3) 社会実験の効果

これらの社会実験を行った結果、表町商店街での自転車の乗車乗り入れの割合は、最大で14.9%減少するといった効果があがっている。それ以外にも、自転車が速度を出しにくい環境になってい

ることから、乗車している自転車の速度が下がり、安心して歩けるようになったとの意見もあった。

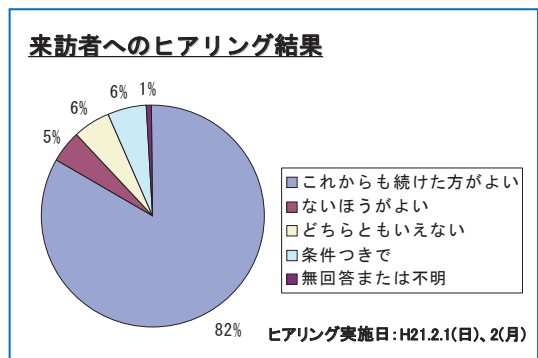
一方、路上駐輪場についても、積極的な活用が図られ、整然と駐輪されるようになった。

また、これらの社会実験の内容について、来訪者・商店主へのアンケートにおいて、今後も継続していくべきとの意見が大半を占めており、社会実験の内容が大変好評であった。

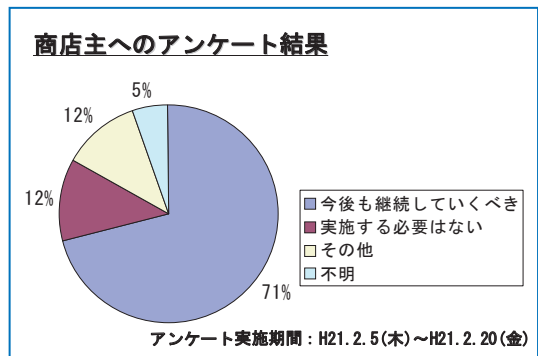


調査実施日 H20.12.3(水) H21.1.28(水) H21.2.25(水)

図－3 商店街への乗り入れ結果



ヒアリング実施日：H21.2.1(日)、2(月)



アンケート実施期間：H21.2.5(木)～H21.2.20(金)

図－4 ヒアリング・アンケート結果



写真-2 社会実験中の写真（自転車を押す学生）



写真-3 社会実験中の写真（整然と駐輪される自転車）



写真-4 社会実験中の写真（くつろいでイスの使用）



写真-5 社会実験中の写真（イスの設置）

### 3. 市民との協働

#### (1) NPO 法人まちづくり推進機構おかやま

今回の社会実験では、『NPO 法人まちづくり推進機構岡山』が事務局となって積極的に動いていただいた。その中で、行政では十分にくみ取れない意見や、商店街との調整等、NPO であることで社会実験を円滑に進められた点があった。

#### ○ ユニバーサルデザインの視点による看板

既存の看板は、左の写真のように自転車拒否と誤解されかねない表現となっていたため、誰にでも理解できるピクトグラムとし、「禁止」や「規制」などの表現を避け、目立つ黄色にやわらかなピンク色の色彩にし、英語、中国語、韓国語による説明も付けた。

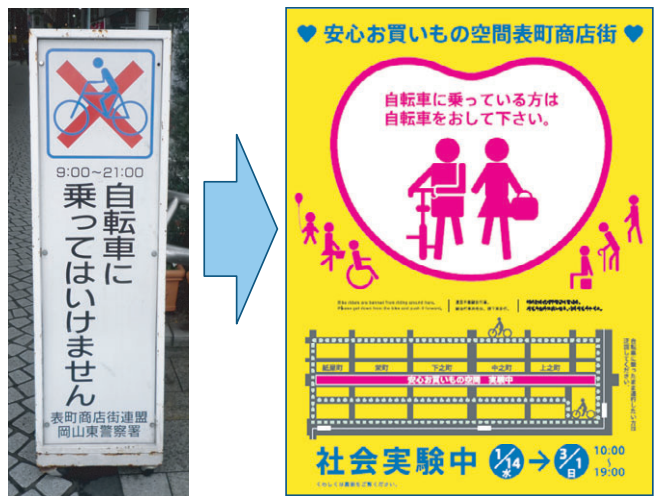


図-5 看板のデザイン

## ○ 視覚障害者への対応

道路中央部に障害物を置くことは、視覚障害者にとっては、歩きづらいと懸念されたが、イスがあるので、直接自転車に白杖が当たって、自転車を将棋倒しにする心配がなく助かるといった意見も頂くことが出来た。



図－6 視覚障害者の通行

## (2) 商店街

商店街の各お店においては、朝夕のイスの出し入れ保管や緊急車両の対応などをお願いした。



写真－7 社会実験中の写真（商店主によるイスの片付け）

このように多くの市民の方々の協力を得て社会実験を実施することが出来た。特に、NPOに参加していただき共同で取り組むことで、社会実験を円滑に進めることや新たな視点による取り組みが可能となったと思われる。より一層の協働が求められていくのではないだろうか。

## 4. おわりに

今回の社会実験においては、NPO 法人まちづくり推進機構岡山を中心として、表町商店街、岡山大学、岡山市、岡山県、岡山県警、岡山国道事務所と多くの方々に、表町商店街歩行者・自転車共存社会実験実施協議会に参加いただき、多くの協力を得ることで、無事に社会実験を終了することが出来た。今後、本

方式を岡山方式として、広めていただければ幸いである。

最後になるが、関係各位のご協力に感謝の意を示すと共に、今後も協力関係を継続し、一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。